

令和2年度

保健福祉学部附属診療センター

年報

目次

I 年度目標と実績

II 診療実績

III 教育実績

IV 研究業績

V 従事者名簿

令和2年度目標と実績のまとめ

目標

- ①医療安全対策の継続実施
 - ★医療安全のための定期点検・安全対策の周知
- ②今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ★診療体制の検討
 - ★備品の計画的な更新
 - ★附属診療センターの存在意義を学内外に発信

実績

- ①医療機関としての安全管理体制整備
 - ◆新型コロナ感染症対応(感染予防と診療機能維持を併行)
感染症対策として、検温、消毒の徹底、人の接触の回避、電話診療を行った
県立広島大学新型コロナ感染症基準に基づき受診患者の制限を行った
 - ◆安全対策のための環境整備(転倒予防対策・感染症予防対策)
 - ◆医療安全研修会の実施
7月 新型コロナ感染症予防に関する専門動画・資料視聴 主任看護師から推薦
3月24日 コロナ禍におけるメンタルヘルスの視点から考えるストレスケア 織田靖史先生
- ②教育および研究のための体制の充実
 - ◆実績 初診患者 127名 のべ患者数 3235件 リハビリテーション 1050件
学内実習 10名 学内者見学 0名
 - ◆コミュニケーション障害学科・作業療法学科・理学療法学科臨床実習施設
 - ◆年報の公開
 - ◆広島県地域リハビリテーションサポートセンター指定施設(平成30年1月1日より継続中)
三原市サービスケア会議にリハ助言者として出席(2回)
- ③今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ◆診療体制の整備(看護師・非常勤職員)
 - ◆備品の計画的な整備・更新(ポケットエコー, ポニースイング等)
 - ◆附属診療センターの広報(本年度はWEB配信にて実施)
オープンキャンパス シティカレッジ 公開講座等
 - ◆学外者の研修の受け入れ
福山大学大学院生5名(別室のマジックミラーから実施)

来年度計画

- ①医療安全対策の継続実施
 - ★医療安全のための定期点検・安全対策の周知
 - ★感染症等の迅速な情報収集と対策の実施
- ②今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ★安定的な体制維持にむけての診療機能の検討
 - ★備品の計画的な更新
 - ★附属診療センターの存在意義を学内外に発信

令和2年度統計

①地域別

地域	初診	再診	実人数	のべ人数
三原市	53	389	442	1891
尾道市	30	136	166	576
広島市	6	15	21	86
福山市	17	114	131	431
三次市	0	1	1	1
呉市	0	1	1	2
世羅郡	0	11	11	52
豊田郡	0	1	1	1
竹原市	0	11	11	64
廿日市市	1	0	1	1
東広島市	3	6	9	20
府中市	8	18	26	44
安芸郡	1	3	4	14
神石郡	0	2	2	6
庄原市	1	0	1	1
山口	6	2	8	25
岡山	0	3	3	15
鳥根	1	0	1	1
関西	0	1	1	3
九州	0	0	0	0
合計	127	714	841	3,234

②年齢別

年齢	初診	再診	実人数
3歳未満	4	7	11
3歳	4	3	7
4歳	5	4	9
5歳	19	18	37
6歳	26	43	69
小1	11	49	60
小2	5	42	47
小3	9	41	50
小4	7	45	52
小5	1	49	50
小6	5	57	62
中1	4	44	48
中2	3	40	43
中3	1	46	47
高校生	0	61	61
19歳～20歳	0	24	24
21歳～30歳	6	23	29
31歳～40歳	3	11	14
41歳～50歳	4	16	20
51歳～60歳	6	18	24
60歳以上	4	73	77
合計	127	714	841

③初診患者の主診断名

診断名	人数
自閉スペクトラム症	53
注意欠如多動症	23
知的発達症	11
発達性学習症	2
発声・嚥下・構音障害	27
難聴	3
その他の耳鼻科疾患	2
高次脳機能障害・認知症・脳血管疾患	1
脊髄・神経・筋疾患	1
整形外科疾患	1
てんかん	1
その他	2

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
理学療法学概論Ⅱ (理学療法学科)	1	30	11月	1	理学療法学科の1年次生を対象とし、理学療法士だけでなく言語聴覚士、診療放射線技師の業務や実際の治療について見学・説明を行い、理解を深めた。
卒業研究 (作業療法学科)	3	3	通年	3	卒業研究の事前学習目的で小児科診療の陪席見学を行い発達外来の理解を深めた。
認知系障害学概論Ⅰ (コミュニケーション障害学科)	2	30	通年	12	失語症のある患者さんと言語聴覚士のコミュニケーション場面をビデオ撮影し、映像を授業で活用した。また、スクリーニング検査および標準失語症検査場面を観察・記録させ、評価報告書などの作成データとして活用した。
認知系障害学概論Ⅱ (コミュニケーション障害学科)	3	30	通年	10	失語症および高次脳機能障害のある患者さんのスクリーニング検査、失語症に関する総合検査、精査などの場面を観察・記録させ、評価報告書などの作成データおよび訓練計画を考えるためのデータとして活用した。
認知系障害学演習Ⅰ (コミュニケーション障害学科)	3	30	4～7月	6	失語症や高次脳機能障害のある方に対する検査方法や症状を具体的に理解させるために、検査場면을提示した。
発達系障害学演習Ⅰ (コミュニケーション障害学科)	3	30	4～7月	2	K-ABC2発達検査の検査結果の解釈演習・レポート作成課題の基となる検査データについて、当診療センターでの自験例を改変して提示した
コミュニケーション障害 診断法 (コミュニケーション障害 学科)	2	29	後期	8	ビデオで提示する事例について、本診療センター内施設を利用して作成した
発達系障害学演習Ⅱ (コミュニケーション障害 学科)	3	30	後期	9	・田中ビナー知能検査、Rey複雑図形検査、WAVES、読み書きスクリーニング検査の解釈演習・レポート作成課題の基となる検査データについて、当診療センターでの自験例を改変して提示した ・評価報告書作成演習・訓練計画立案演習において、演習で提示される模擬患者の諸検査を、当診療センターでの自験例を改変して提示した
発達系障害学概論Ⅱ (コミュニケーション障害 学科)	3	30	後期	6	・本科目で学生に提示しレポートを作成させる症例として当診療センターでの担当事例を改変して提示した(中等度の知的障害、重度の知的障害自閉スペクトラム症、特異的言語発達障害・学習障害、小児高次脳機能障害)

【実習】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ (理学療法学科)	4	6	9～10月	3	学内オンライン実習後、外来リハの見学・体験希望者に対して、診療参加型実習を行った。
総合臨床実習Ⅰ	4	30	4～5月	1	診察・リハビリ風景等を撮影し、学内でのオンライン実習に使用した。
発達障害治療学 実習 (作業療法学科)	3	16	10月～ 12月	各グルー プ 3回	発達障害の診断のある患児4名の協力を得て、学生に作業療法場面の見学、模倣を実施した。学生2～3名が患者1名を担当し、1組当たり1回の実習を行い、作業療法の臨床場면을学習した。
臨床実習Ⅰ (コミュニケーション 障害学科)	2	30	通年	36	ビデオで提示する事例について、本診療センター患者の訓練の様子を本診療センター内施設を利用して作成した。言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき学生2～3名が1組になり言語聴覚療法の見学を1組当たり年間3回実施した。(オンラインで実施)
臨床実習Ⅱ (コミュニケーション 障害学科)	3	30	通年	120	言語聴覚障害のある患者さんに協力いただき、言語聴覚療法についての評価・計画立案・言語聴覚療法実施・報告書作成などを内容とする実習を、学生1人につき年間8回実施した。(オンラインで実施)
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション 障害学科)	4	28	通年	1	附属診療センター神経内科(原田医師)の診療場면을収録して、オンラインで見学を行い、事前に設定された項目について、見学場面で観察できたことや考察した点についてレポートを作成した。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション 障害学科)	4	26	通年	1	附属診療センター小児科(林医師)の診療について資料に基づいて説明を受けたのちに、オンラインで提示された診察場面のビデオを閲覧して事前に設定された項目について、考察しレポートを作成した。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション 障害学科)	4	26	通年	1	附属診療センター耳鼻咽喉科(田口医師)の担当患者などの検査画像などをオンラインで提示して事前に設定された項目について、観察できたことや考察した点についてレポートを作成した。
臨床実習Ⅲ (コミュニケーション 障害学科)	4	26	前期	20日	4年次の学外臨床実習が中止となったため、その代替として学内実習を実施した(オンラインで実施)

【卒業研究】

卒業論文タイトル
脳性麻痺児をもつ親の育児に対する肯定的感情につながった要因(看護学科)
NICUにおける看護師の親への関わりに関する文献研究(看護学科)
特別な配慮を必要とする発達障がい児と家族に対する看護師の支援と今後の課題 (看護学科)
附属診療センター受診中学生の予後の検討—小学校就学時学級からの検討— (作業療法学科)
附属診療センター受診中学生の予後の検討—初診年齢からの検討— (作業療法学科)
附属診療センター受診中学生の予後の検討—中学卒業後の進路からの検討— (作業療法学科)
大学生と高齢者の主観的健康観の関連性について (作業療法学科)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が大学生の生活満足度に及ぼす影響 (作業療法学科)
遂行困難な作業に対して「イメージをする」ことが作業の満足度の獲得に及ぼす影響(作業療法学科)
Vocal Function Exercise(VFE)の訓練手技に対する文献的考察 (コミュニケーション障害学科)
Semi-occluded Vocal Tract Exercises(SOVTE)についての文献的考察 (コミュニケーション障害学科)
新しい喚語障害への言語治療—Repeated, Increasingly-Speech Productionの試み— (コミュニケーション障害学科)
粹失読例の読字潜時に画像刺激の空間周波数の違いが影響する? (コミュニケーション障害学科)
“チャットグループ”の継続が失語症者の会話に及ぼす効果 (コミュニケーション障害学科)
失語症者の“チャットグループ”における写真使用の効果(コミュニケーション障害学科)
COVID-19が摂食嚥下リハビリテーションに与えた影響(コミュニケーション障害学科)

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
Relationship between autonomic nervous function and high-resolution music box audio.	International Medical Journal 27 (1): 13-15	Miyazaki H, Harada T, Aonaka J, Ishizaki F, Kodama Y, Ito S, Numamoto H, Yoshikawa N, Nitta Y, Miki Y, Yamamoto R, Niyada K, Aoi S, Ikeda H, Kenji Suehiro K, Nitta K	令和2年2月
Study on comparison of 24 with 16 bit headphone high-resolution music box audio	International Medical Journal 27 (1): 55-57	Miyazaki H, Harada T, Aonaka J, Ishizaki F, Kodama Y, Ito S, Nozaki M, Tsujimichi N, Numamoto H, Yoshikawa N, Nitta Y, Miki Y, Yamamoto R, Niyada K, Aoi S, Ikeda H, Kenji Suehiro K, Nitta K	令和2年2月
An experimental study of therapy goat.	International Medical Journal 27 (1): 58-61	Nitta K, Cheng WP, Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Numamoto H, Hayama M, Ito S, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Ando J, Kobayashi M, Ito M, Sugawara T, Nakabeppu K, Asakura Y	令和2年2月
脳損傷後運動障害における運動野の機能再編	理学療法の臨床と研究, 29: 17-21	松浦晃宏, 苅田哲也, 森大志	令和2年3月
5歳児発達を記録した子どもの就学後の検討	人間と科学 20 (1):35-43	堀江真由美, 小島理恵子	令和2年3月
Perilla Oil Intake and Changes of Physiological Indicators in Japanese People.	International Medical Journal 25 (4): 1713-1720	Kato Y, Umei N, Harada T, Iida T, Aoi S, Miyake Y, Sato Y	令和2年4月
Activity-pacing and outcomes of total knee arthroplasty: A longitudinal study	Cogent Medicine 7 (1):1769316	Hiraga Y, Hisano S, Nomiyama K, Hirakawa Y	令和2年5月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
【スポーツ医学と耳鼻咽喉科】スポーツと耳鼻咽喉科疾患 スポーツと音声障害	JOHNS 36(5) :625 - 627	田口 亜紀	令和2年5月
Vocal Function Exercise短縮版による音声治療効果の検討	喉頭 32(1): 37 - 42	田口 亜紀, 有友 宏	令和2年6月
特集Ⅱ 神経心理学の古典的症例(Ⅲ)－今日的意味－ Marshall & Newcombe (1966, 1973)の深層失読例	脳神経内科, 93 (2): 184-194	辰巳 格, 渡辺 真澄	令和2年8月
甲状軟骨形成術Ⅲ型術後に音声治療を施行した変声障害の1例	耳鼻と臨床 66(5): 177 - 180	田口 亜紀, 兵頭 直樹, 玉井 東代, 河島 早苗	令和2年9月
【耳鼻咽喉科診療Q&A】喉頭・気管領域 声帯萎縮により声の出しにくい高齢者に有効な治療はありますか?	JOHNS 36(9): 1262 - 1263	田口 亜紀	令和2年9月
後期高齢者に対する基礎的嚥下訓練の効果	言語聴覚研究17巻3号214	友久亮, 矢守麻奈, 向井邦俊	令和2年9月
Status and practice of therapy goat in the world.	International Medical Journal 27 (5): 616-619	Nitta K, Cheng W, Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Numamoto H, Yoshikawa N, Nobukuni Y, Hayama M, Ito S, Miyazaki H,	令和2年10月
Relationship between the characteristics of animal-assisted therapy and patients.	International Medical Journal 27 (5): 620-623	Harada T, Ishizaki F, Cheng W, Nitta Y, Miki Y, Numamoto H, Yoshikawa N, Nobukuni Y, Hayama M, Ito S, Miyazaki H,	令和2年10月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
認知症早期判定のための構造適応型深層学習によるMRI/PET画像の分類.	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2021 (SSI2020):119-123	鎌田真, 市村匠, 原田俊英	令和2年11月
二足歩行運動の中枢制御機序	脊髄外科, 34: 237-242	森大志	令和2年12月
Water resistanceにおける訓練効果について—声の高さにおける検討—	喉頭 32(2) :117 - 124	田口 亜紀, 竹下小百合, 長谷川琴音, 城本修, 土師知行	令和2年12月
地域課題解決型授業の教育効果～CBRプロジェクト前後比較での検討～	作業療法 40(1):126-132	元廣 惇, 久野真矢, 仲田奈生, 山本真理子, 藤井寛幸	令和3年2月
加齢による音声障害に対する「VFE短縮版」の効果	人間と科学 県立広島大学保健福祉学雑誌 21(1):29-34	田口亜紀	令和3年3月
統合失調症者の作業技能と認知機能障害～AMPSとBACS-Jを用いて～	作業療法ジャーナル	青山克実, 久野真矢	令和3年3月
Combining goal setting and achievement with occupational therapy to improve pain, psychological factors, and physical activity in patients after high tibial osteotomy: a non-randomized controlled study	Hong Kong Journal of Occupational Therapy	Hiraga Y, Hisano S, Nomiya K, Hirakawa Y	令和3年3月

【著書】

タイトル	著者名	担当範囲	出版社	出版年月日
第10章失語症の言語治療の実際. 3.活動・参加訓練. 標準言語聴覚障害学.失語症学 第3版	坊岡峰子. シリーズ監修: 藤田郁代.	分担執筆	医学書院	令和3年2月
医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版	田島文博 編著 林優子 住居広士 狩谷明美 安武茂	分担執筆	永井書店	令和3年3月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
Mechanical in-exsufflator application improved the peak cough flow in a patient with multiple system atrophy: A single-subject design.	Taniuchi R, <u>Harada T</u> , Makino T, Togashi S, Matsukawa K, Hoshi T	14th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress	令和2年3月
A literature review on factors associated with alcohol consumption in young adult survivors of childhood cancer	Torobu A , Sobue I, Funakoshi K, Okimoto K, Ikeuchi K, Kamoshita K	The 7th Asian Symposium on Healthcare Without Borders	令和2年3月
チャットグループによる失語症者へのアプローチ①-写真・ネット情報がおよぼす効果-	秋田美菜穂, 坊岡峰子, 新谷桃果	第21回日本言語聴覚学会(誌上)	令和2年6月
チャットグループによる失語症者へのアプローチ②-心理・社会的側面への効果-	新谷桃果, 坊岡峰子, 秋田美菜穂	第21回日本言語聴覚学会(誌上)	令和2年6月
動画を用いた失語症者のAAC能力検査法(試案)	坊岡峰子, 秋田美菜穂, 新谷桃果	第21回日本言語聴覚学会(誌上)	令和2年6月
後期高齢者に対する基礎的嚥下訓練の効果	友久亮, 矢守麻奈, 向井邦俊	第21回日本言語聴覚学会(誌上)	令和2年6月
発達外来における中学不登校生徒の予後の検討	林優子 土路生明美 鴨下加代	第62回日本小児神経学会学術集会 脳と発達 52: S260	令和2年9月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
高次脳機能障害を持つクライアントに対する人間作業モデルに基づいた訪問作業療法の経験	渡邊達人、久野真矢、高見由美	第54回日本作業療法学会	令和2年9月
Water resistanceにおける訓練効果について-声の高さにおける検討-	田口亜紀, 竹下小百合, 長谷川琴音, 城本修, 土師知行	第32回日本喉頭科学会総会・学術講演会	令和2年9月
おかえりプロジェクトを活用した認知症ケアチームによる在宅復帰支援	齊藤隆一, 坂本千晶, 西田征治	第54回日本作業療法学会	令和2年9月
認知症治療病棟での早期在宅復帰プログラムの効果検証 —2年間のトライアル—	坂本千晶, 西田征治, 藤巻康一郎, 土岐茂, 小山田孝裕	第54回日本作業療法学会	令和2年9月
発達上課題のある学生のアセスメントと支援	林優子	令和2年度広島県専任教員継続研修 広島	令和2年10月
光電声門図(ePGG)を用いた起声に関する研究	田口亜紀, 榊原健一, 土師知行	第65回日本音声言語医学会総会・学術講演会	令和2年10月
言語障害と言語治療 子どものことばの障害を中心に	堀江真由美	広島県立安芸南高校模擬授業	令和2年10月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
介護保険施設でも施行可能な摂食嚥下機能の維持・向上のための方策	矢守麻奈	尾道市瀬戸田町(社福)新生福祉会研修会	令和2年10月
認知症早期判定のための構造適応型深層学習によるMRI/PET画像の分類.	鎌田真, 市村匠, 原田俊英	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会(web)	令和2年11月
仮名語の音読における心像性効果	渡辺 眞澄, 山崎 悠貴, 和田 歩美, 辰巳 格	第44回日本高次脳機能障害学会 学術総会	令和2年11月
日本語の動詞活用に関する基礎的研究	渡辺 眞澄, 仁井山 志穂, 西河 杏莉, 辰巳 格	第44回日本高次脳機能障害学会 学術総会	令和2年11月
介護伏え県施設でも施行可能な摂食嚥下機能変化の早期発見、栄養保障	矢守麻奈	尾道市瀬戸田町(社福)新生福祉会研修会	令和2年11月
自宅でできる飲み込み機能の維持-「誤嚥(ごえん)を予防して健康寿命を延ばそう!	矢守麻奈	三原シティカレッジ	令和2年12月
学習障害へのアプローチ-小児科医の役割-	林優子	令和3年第1回三原市小児科医会	令和3年1月
コロナに負けるな!のどの健康に注意	田口亜紀	NHK広島 ひるまえ直送便	令和3年1月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
「今こそのを鍛えよう！」	田口亜紀	NHK広島 お好みワイドひろしま	令和3年1月
音声障害のリハビリテーション	田口亜紀	令和2年度音声言語機能等判定 医師研修会	令和3年2月
言語訓練に関わる疾患	堀江真由美	大竹市教育委員会通級審査委員 研修会	令和3年2月
大丈夫！認知症への支度	坂本千晶	県大教養スクール「学びのヒヤ ク」	令和3年2月
怖くない！認知症と生きるということ	坂本千晶	県大教養スクール「学びのヒヤ ク」	令和3年2月
拡大代替コミュニケーション (AAC)を用いた失語症のある方 とのコミュニケーション ～AAC手段の選定と活用～	坊岡峰子	(株)gene リハスタッフ向けセミ ナー	令和3年2月
PTV法を応用した320列CTによる 嚥下物の流体力学的解析	河内和誉, 勢井洋 史, 田中加緒里, 田口亜紀, 羽藤直 人	第44回日本嚥下医学会総会・学 術講演会	令和3年3月

【外部資金】

タイトル	代表研究者名	制度名	研究期間
学齢期にある肥満症の発達障がい児への運動習慣に焦点を当てた看護介入の検討	鴨下加代	科学研究費補助金 基盤研究(C)	平成29～令和2年度
動詞活用の乱れは、音韻、意味の乱れと、悪い友達	渡辺 眞澄	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成29～令和3年度
認知症者の音声による他者の感情の理解	堀江真由美	科学研究費補助金 (若手研究B)	平成30年～令和3年度
言語障害児・者を対象とした包括的言語検査に基づいた認知神経心理学的評価基準の開発	川崎医療福祉大学 種村純(分担:渡辺眞澄)	科学研究費補助金 (基盤研究B)	平成30～令和4年度
脳梁を介した大脳皮質一次運動野からの運動出力と二足歩行	森大志	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成31～令和3年度
認知レベルと対応した認知症アクティビティケア・マトリクスの開発	久野真矢	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成31～令和3年度
発がんリスク遺伝子とライフスタイルに着目した小児がん経験者の生活に関する探索研究	土路生明美	科学研究費補助金 基盤研究(C)	平成31～令和5年度
軽度認知障害(MCI)に対するハイレゾ・オルゴール音楽療法の有効性の検証	原田 俊英	科学研究費補助金:令和2年度(2020年度)基盤研究(C)(一般)	令和2年～令和4年度
動詞活用規則のエニグマ-多すぎる規則は使われない	渡辺 眞澄	科学研究費補助金 (基盤研究C)	令和2年～令和4年度

V 従事者名簿

医師

小児科	林 優子
リハビリテーション科	沖 貞明
内科	安武 繁
精神科	藤巻康一郎
耳鼻咽喉科	田口亜紀
神経内科	原田俊英
整形外科	住居広士
脳神経外科	森 大志

看護師

看護師	土路生明美
	鴨下加代
	日高陵子
	青井聡美
	池田ひろみ
看護師（専任）	井上セツ子
	大亀昭子
医療事務受付	田坂春美
	村田智子
	山根亜樹

非常勤専門職員

医師	石崎文子
心理カウンセラー	山本映子
小児理学療法士	清水ミシェルアイズマン
公認心理師	辻 圭位子
臨床検査技師	児玉祐子
作業療法士	増田久美子
作業療法士	新庄玉恵

コメディカル

看護師	土路生明美
	鴨下加代
	日高陵好
	青井聡美
	池田ひろみ
理学療法士	金井秀作
	田中聡
	小野武也
	島谷康司
	長谷川正哉
	梅井凡子
	西上 智彦
	積山和加子
	高宮尚美
	金指美帆
佐藤勇太	
岡村和典	
作業療法士	吉川ひろみ
	小池好久
	久野真矢
	西田征治
	古山千佳子
	高木雅之
	吉岡和哉
	織田靖史
坂本千晶	
池内克馬	
言語聴覚士	堀江真由美
	坊岡峰子
	細川淳嗣
	小澤由嗣
	長谷川純
	城本 修
	矢守麻奈
	佐藤紀代子
	渡辺真澄
	津田哲也
中村 文	
小島 理恵子	
放射線技師	中村 悟
	飯田 忠行
社会福祉士	永野なおみ